

# いのちの泉

カーメルバプテスト教会  
日本人ミニストリー月報  
2003年8月号

Charlotte では毎日、雷雨がやって来て、朝晩、時には肌寒さを覚えるような夏を過ごしました。聞くところによりますと、東京も涼しさを乗り越えて、長袖を着て布団をかぶって眠るほどの日々を送っているとか。一方フランスでは1万人以上の死者が出るような酷暑が続いています。一体地球はどうなってしまったのだろうか、と思いたくなるような2003年の夏でした。

皆様には如何お過ごしでしょうか？

最近日本へお帰りになった方々にも、この「命の泉」が届けられるようになり、日本に居られる姉妹達がより身近な存在として感じられるようになりました。日本からの投稿も歓迎いたします。心温まるニュースなど、ぜひお送り下さい。



先月号で、映画「The Pianist」の話を書いたのですが、「命の泉」7月号を受け取ったその日に、Carmel 教会の私の Box（配布物などを入れておいてくれる）の中に入っていたクリスチャン新聞7月号を開きますと、友納徳治先生の書かれた「聖書交響楽」というのが目に入りました。「『戦場のピアニスト』のモデルになったシュピルマンの息子のクリストファーさんが福岡に住んでおられます。」という書き出しにはビックリ致しました。偶然と言えば余りにも偶然。主は時にはこんな粹なことをして下さるのかと嬉しくなりました。また Szpilman 氏の CD も「The Pianist」に感動していた友人によって、手に入れることができました。感謝します。

つい先日、私は Carmel 教会の文庫から Don Richardson 著「Peace Child」を借りて読みました。リチャードソン氏は1962年、妻と一才に満たない息子を伴ってニューギニアの奥地に住む人食い人種のサウィ族の中に入って宣教活動をされた方です。

ワニや大蛇の住む沼地の多いジャングルでの生活は、先ず、原住民の言葉を学ぶところから始まりました。ジャングルの中では200人位が単位となって、幾つもの部族が分かれて住み、お互い敵対し合っ、傷つけたり殺し合ったりの争いを繰り返しながら生活していました。時には他の部族の者を招待してもてなすことがあっても、相手が心を許したところで襲い掛かって殺し、食すという裏切りの文化を持つサウィ族にとっては、聖書の中でイエスを裏切ったユダが英雄にさえなってしまう。彼ら部族間の唯一の和解の方法は、お互いの幼児を交換し合うという、まさにイケニエの子供によるものでした。捧げられた子供が生きている間は平和が続くけれども、必ずしも子供が生かされているとは限りません。イケニエとして捧げられる子供を取り上げられた親の悲しみ、苦しみを見たリチャードソン氏は、彼らに「神がその一人子をこの世に送られたこと。その一人子は十字架にかけられて殺されたこと。一人子を送られた神様は決して私達人間に復讐をされなかったばかりか、その一人子の御霊は私達の心に平安を与えて下さり、今も生きていること」を語られたのでした。ジャングルの中で悪霊を信じてきた彼らにとって、リチャードソン氏の語られる神様の存在は、文明社会に住む我々よりも、より素直に受け入れられたように思います。

御言葉を地の果てまで伝えて行くことのご苦勞、時には緊張感、到底私達の想像の及ぶところではありません。揺るぎない信仰、愛、使命、健康、主の助けなくしてはできないことでしょう。世界中にはどれほど多くの宣教師達が遣わされているのでしょうか。彼ら宣教師の健康と、よき働きのために、日々祈っていききたいものです。

中藤百々代

いかに美しいことか、山々を歩き巡り、良い知らせを伝える者の足は。彼は平和を告げ、恵みの良い知らせを伝え、救いを告げ、あなたの神は王となられた、とシオンに向かって呼ばれる。（イザヤ52：7）



幸せな結婚生活 エペソ5章21節から33節

ジョエル・ラブストランド牧師

幸せな結婚生活をするのに何が必要でしょうか。実はそれより重要な質問があります。それは、神様に喜ばれる結婚生活を作るにはどうしたら良いか」ということです。イエス様は言われました。「命を救おうと思

う者はそれを失い。私のために命を失う者は、それを見出すのです。」（マタイ16：25）また、別の所でこう言われます。「神の国とその義をまず第一に求めなさい。そうすればそれに加えて、これらのものは

全て与えられます。」（マタイ6：33）それと同様に幸せな結婚生活を求めている間に神様のことを忘れてしまったら神様に喜ばれる人生を失うので、最高の結婚生活を経験する機会を失ってしまいます。

では、幸せな結婚生活が出来るためにはどうしたら良いのでしょうか。第一に、キリストを畏れ尊びます。クリスチャンにとってキリストを畏れ尊ぶことは、全ての従順の根拠です。エペソ5章22節から6章9節まで妻が夫に、子供が親に、そして奴隷が主人に従うことについて書かれています。それぞれの場合にキリストを敬いますから、神様が全ての権威をキリストに与えられたように、今の時代に権威を預けられた人も敬います。ローマ人への手紙13章7節にこう書いてあります。「全ての人々に対して自分の義務を果たしなさい。貢を納めるべき人には貢を納め、税を納めるべき人には税を納め、恐るべき人は恐れ、敬うべき人は敬いなさい。」第一ペテロに主人に対する恐れが書かれています。（1ペテロ2：18）ダビデはサウルに追いかけている時、サウルを殺せる機会がありましたが、主を畏れたため殺しませんでした。（1サムエル26：7～10）サウルが死んだ時、ある人がダビデの所に行って何か報いを得ようとして、自分がサウルを殺したと言いました。しかしダビデの反応はその人の予想と違いました。（2サムエル1：14～16）

この世の権威に従う理由は神様を畏れ尊ぶからです。人間関係は難しいことです。クリスチャンが相手を大切に作る主な理由は、神様を畏れ尊ぶからです。妻の場合、自分の夫に従う理由はキリストを畏れ尊ぶことです。なぜかと言いますと、キリストが教会の中に秩序があるのを望んでおられるのです。キリストは私達を愛して下さり、私達のために死んで下さったので、あまり恐ろしく見えないかもしれません。しかし、聖書によると再び世に来られる時、力を持って世を裁きます。黙示録を読むと福音書で語られているイエスと違うイメージがあります。黙示録1章12節～18節を御覧下さい。6章15節～17節にもキリストの恐ろしい姿が見えます。同じように第二テサロニケ1章6節～10節にイエス様の再臨が書いてあります。

「神は正しいことを行われます。あなた方を苦しめている者には苦しみをもって報い、また苦しみを受けているあなた方には、私達と共に休息をもって報いて下さるのです。主イエスが力強い天使達を率いて天から来られる時、神はこの報いを実現なさいます。主イエスは、燃え盛る火の中を来られます。そして神を認めない者や、私達の主イエスの福音に聞き従わない者に

罰をお与えになります。彼らは、主の面前から退けられ、その栄光に輝く力から切り離されて、永遠の破滅という刑罰を受けるでしょう。かの日、主が来られる時、主は御自分の聖なる者達の間であがめられ、また全て信じる者達の間でほめたたえられるのです。それは、あなた方が私達のもたらした証しを信じたからです。」このキリストは父なる神様に全ての権威を与えられたので畏れ尊ぶべきです。キリストを敬うならキリストが定められた全ての権威も敬うはずで

では、キリストを畏れ尊ぶことは結婚生活とどういう関係があるのでしょうか。妻の場合ははっきりと書いてあります。22節を御覧下さい。「妻達よ、主に仕えるように、自分の夫に仕えなさい。」先ほど申し上げたように、キリストを敬うなら、キリストに権威を与えられた人も敬うべきです。

夫にとってはキリストを畏れ尊ぶことはどういう意味があるのでしょうか。夫は妻が夫に従うのと同じようには妻に従うことをしませんが、これは夫に対しても適用できると思います。夫は本当にキリストを畏れ敬うなら自分の妻を大事にするはずで、妻に権力を振るって虐待したりしません。第一ペテロ3章7節にこう書いてあります。「同じように、夫達よ、妻を自分よりも弱い者だとわきまえて生活を共にし、命の恵みを共に受け継ぐ者として尊敬しなさい。そうすれば、あなた方の祈りが妨げられることはありません。」クリスチャンの場合は、神様が与えて下さった権威は他の人を助けるためです。マタイ20章25節～27節にイエスは言われます。「あなた方も知っているように、異邦人の間では支配者達が民を支配し、偉い人達が権力を振るっている。しかし、あなた方の中では、そうであってはならない。あなた方の中で偉くなりたい者は、皆に仕える者になり、一番上になりたい者は皆の僕になりなさい。」

御主人も奥さんも、最高の結婚生活が欲しかったら、まずキリストを畏れ尊ばなければなりません。



この個所を良く見ますと、幸せな結婚生活を作るために他のことも必要だと分かります。第二に自分の役割を果たす必要があると分かります。妻の役割は22節に書いてあります。「妻達よ、主に仕えるように、自分の夫に仕えなさい。」これは単純な命令ですが、実行することは難しいと思います。いつ従わなければならないのでしょうか。どういう点において従わなければならないのでしょうか。その答えは24節に書いてあります。「教会がキリストに仕えるよう

に、妻も全ての面で夫に仕えるべきです。」御主人が親切であっても意地悪な人であっても従うべきです。33節に書いてある「自分の夫を敬いなさい」という言葉は、夫が必ずしも立派な人柄を持っているからではありません。妻は、自分の夫が神様によって頭とされたことを認めるべきです。気難しい夫がいるし、親切な夫でも虫の居所が悪い時がありますが、キリストを恐れ尊んだら御主人に与えられた権威を認めて、御主人を敬うことが出来ると思います。

御主人が未信者の場合はどうしたら良いでしょうか。第一ペテロ3章1節～2節を御覧下さい。「同じように、妻達よ、自分の夫に従いなさい。夫が御言葉を信じない人であっても、妻の無言の行いによって信仰に導かれるようになるためです。神を畏れるあなた方の純真な生活を見るからです。」未信者の夫に説教することは余り効果がないと思います。ですから1節の後半に「妻の無言の振る舞いによって」と書いてあります。その方がずっと効果的です。「でも、家の主人はひどいことをするんですよ」と言う方がいらっしゃるかもしれません。もちろん従っていけば傷つく可能性があります。しかしキリストを恐れ尊ぶなら罪人がする悪い行ないを恐れなくても良いのです。「義のために苦しみを受けるのであれば、幸いです。人々を恐れたり、心を乱したりしてはいけません。心の中でキリストを主とあがめなさい。」(1ペテロ3:14～15a)キリストを主として崇めることは、キリストを恐れ尊ぶこととほとんど同じだと思います。ですから6節にこう書いてあります。「例えばサラは、アブラハムを主人と呼んで、彼に服従しました。あなた方も、善を行い、また何事も恐れないなら、サラの娘となるのです。」奥さん、恐れなくて下さい。御主人が難しい人であっても忍耐を持ってキリストを恐れ尊んで御主人に従えば、神様の祝福を得ます。

では、なぜ妻は夫に従うべきでしょうか。簡単に言いますと、神様の御計画ですから。神様は夫を妻の頭とされたのです。夫の方がえらいわけでもないし、夫の方が知識を持っているわけでもありません。しかし、自分の意見と御主人の意見がどうしても合わない場合は、自分の意志を御主人の意思に従わせなければなりません。

男は自然に尊敬を求めます。いくら親切にされても尊敬されなければ嫌です。男にとって尊敬はどうしても必要なものです。自分の家庭の中でさえ尊敬されなければ、特に辛いでしょう。



それでは、夫の役割は何でしょうか。25節に書いてあります。「夫達よ、キリストが教会を愛し、教会のために御自分をお与えになったように、妻を愛しなさい。」自分の妻を愛することは当たり前だと思う人もいますが、この個所に書かれている愛とは、ただ恋人扱いではありません。キリストが私達を愛されたのが夫の模範です。夫は自分の楽しみを犠牲にして妻の必要を満たそうとします。妻の頭としての権威を持っていますが、その権威を自分勝手に使ってはいけません。先ほど申し上げたように、その権威は自分を喜ばせるためではなく他の人を助けるためです。では夫の意見と妻の意見が分かれた時、夫はどうすれば良いのでしょうか。そういう時、自分を喜ばせないで、妻の益になることを選びます。

幸せな結婚生活ができるように、まずキリストを恐れ尊びます。そして自分の役割を果たします。そして第三にキリストとの関係を第一にしなければなりません。自分や家族や結婚を第一にすれば人生が狂ってしまいます。地上での結婚は将来私達がキリストと一つになることを示しています。今の幸せな結婚生活は、その時の幸せと比べれば取るに足らないものです。天国に行くとキリストと一つになった時、今の結婚生活よりずっと親しい関係を楽しみます。ある人は優先順位を間違えて結婚を第一にするので神様から離れてしまい今の人生の意味も、神様から与えられるはずの報いも失ってしまいます。神様よりも結婚を大切にすることは偶像礼拝です。結婚を偶像にすることです。今結婚しなくても、キリストとの結婚を楽しみにすることができます。今の結婚生活が難しくても、将来キリストと一つになることを楽しみにして下さい。イエス様との関係は、私達の結婚の模範でありながら人生の目的でもあります。その目的を忘れてしまったら神様に喜ばれる結婚生活ができません。しかしキリストを第一にすれば、何のために生きているか、そして何のために結婚しているかをしっかり心に留めて神様に喜ばれる最高の結婚生活が可能になります。

幸せな結婚生活が欲しいですか。それが出来るためにはどうしたら良いですか。まとめてみますと、まず第一に神様を恐れ尊ぶことが必要です。そうすれば相手が尊敬できるはずですが。そして第二に自分の役割を果たします。キリストと教会の関係を模範とします。そして第三にキリストとの関係を第一にします。クリスチャンにとって人生の目的はここに 있습니다。この三つのことをしたらもっと幸せな結婚生活が経験できるはずですが。

## 心のマッサージ

ユダヤ笑話集 社会思想社三浦鞆郎著

高級品

なぜユダヤの会堂では鐘を鳴らさないのか、と聞かれたラビは、相手を市場に案内した。市場で魚や野菜などを売る店では、売り子が声を囁らして客を呼んでいた。装身具など高級な品物を買っている店では、何を売っているのか分からないくらいに静まりかえっていた。そして、ラビは言った。「いい品物を買って客を呼んだりしません。品物が自分で宣伝してくれるんです。」

長持ちするもの

この世で一番長く続くものは何でしょう、と尋ねられて、賢者の誉れ高いラビは答えた。「それは誠実と信心だ。」質問した男は意外な答えに驚いて、この二つの徳はこのごろめったに見られないが、と言った。「そのとおり。一番使わないものが一番長持ちするのだ。」

## ノアの大洪水 10

グランドキャニオンは、何万年にも渡るコロラド川の侵食によってできたと言われています。もしそうだとすれば、そこから上流200キロほどしか離れていないモニュメントバレーは、どのようにしてできたのでしょうか。テーブル状の山々は非常に切り立っており一つ一つ遠く離れて孤立しています。山々の頂きと下の地面は平たく、山々は垂直に切り立っている事実は侵食が短時間に起きたことを示しています。なぜなら長年かけて侵食されたとすれば、まず山々の頂上は丸くなり、下の地面も川による侵食の跡が残るはずですが。もし一般に考えられているように長い年月をかけて、しかも平になったとすれば、この谷を侵食した川は相当大きく、その長い年月の間一定の水量を保ったことになり、それだけの水量がどこから来て、どこに流れて行ったのか。その川は、その後どうなったのか。なぜこの狭い地域にだけ、そのような大河の跡が有るのか。そのような雨がいつ降ったのか。それだけの雨を降らせた気候はどうなってしまったのか。今は砂漠であるこの地域に何が起ったのか。このような疑問が次々に湧いてくるからです。

両手の平を水平に並べて上に向け、浴槽か大きな水槽の中に浸け、水平のまま静かに上げて水の流れを観察してみてください。水は川のように一筋には流れず、あらゆる方向に一斉



に一気に流れ去ろうとします。また整地した建築現場に大雨が降った後の地面を見て下さい。小石や木片の下土は流れずに残り、その周りの土は削られています。クローズアップして見ればモニュメントバレーに良く似ていないでしょうか。モニュメントバレーは、同様の経過で降り注ぐ大雨によって短時間にできたのです。長年の侵食作用によってできたものではありません。

端的に言えば、これはノアの大洪水の水が引く時にできたのです。そう考えれば進化説に基づいた地質学上の説明が言う、長い時間をかけてできたと考えた時に解けなかった色々な疑問は全て解決します。

そして、その水がグランドキャニオンに流れ、地質の違いにより今度は幅広くではなく、一気に深く侵食したのです。1950年頃、ある町で一週間雨が降り続き、雨が上がった時、そこには長さ500m、幅30m、深さ40mの谷ができていたという報告があります。深い谷が一気にできたのです。ここで、その深い谷は500m先で止まってしまったことに注目して下さい。地質の違いによって一気に深い谷を削った水の勢いも分散させられてしまっ、その先には何の痕跡も残さなかったのです。それがモニュメントバレーとグランドキャニオンが、あれだけ異なった景観を呈しているながら同じ時にできたと言明できる理由です。私は、ノルウェーなどにあるフィヨルドも氷河による長年の侵食によるものではなく、洪水後の水流によってできたものだと考えています。

既成概念から抜け出すのは非常に難しいものです。神は私達の想像をはるかに超えた力を持っておられるということを頭では理解していても、どうしても現実に見る世界から抜け出せないまま、神の力を私達の想像力の範囲に限定してしまいます。神が地球を造られたのですから、ある時に、造り直されたり、壊してしまわれたりすることに何の不思議もないはずなのに、私達は、どうしても地球はできた当時から今のままの形であったらという概念から抜けきることができません。そして、その概念から抜けきれないままでは、ノアの洪水によって起きた地殻の大きな変動や黙示録に示されている将来に起こるはずの大変動を、受け入れることも理解することもできないでしょう。

私達の信じている神は、ダビデも詩編33編6、7節で歌っているように「御言葉によって天は造られ、主の口の息吹によって天の万象は造られた。主は大海の

水をせき止め、深淵の水を倉に収められた。」ほどのお方であることを、もう一度再確認しましょう。

片山進悟

### お知らせ

毎月第2と第4火曜日9時半から、A240号室でエクレシアの会という、肩のこらない形での聖書の学びと楽しい交わりの集まりをしています。どなたでもお気軽にどうぞ。お問い合わせは片山姉704-843-8038まで。

日曜日11時からの礼拝の場所がROCの1階ラウンジR109号室に変わりました。午前9時半からのA231号室での日曜学校、また月曜日夜7時のA238号室での聖書の学びはいままでどおりです。日曜学校は高見憲次兄、聖書の学びはラブストランド牧師により行われています。世界のベストセラー、聖書をご一緒に学びましょう。

少し早いですが、今年もクリスマスにはJillybeanが来て、腹話術、奇術などの楽しいパフォーマンスを披露してくれます（英語です）。昨年は子供も大人も本当に楽しい時を過ごすことが出来ました。12月6日、土曜日午後3時から6時をぜひ空けて置いて下さい。どうぞお友達もお誘い下さい。

8月号が遅くなって申し訳ありません。

なお、編集者が一時帰国しますので、9月及び11月は休刊させていただきます。どうぞ10月号をお楽しみに。

<p>カメル・バプテスト教会 1145 Pineville-Matthews Rd. Matthews, NC 28105 <a href="http://ifc26.tripod.com">http://ifc26.tripod.com</a></p>	<p>モルモン教、エホバの証人（ものみの塔）、統一教会とは関係のない、正統的なキリスト教会です。安心して気軽においで下さい。</p>	<p>日本人ミニストリー連絡先： 李牧師 (704-847-8575) ラブストランド牧師 (704-849-8851) 片山 (704-843-6298)</p>
---	--	--

Japanese Ministry  
Carmel Baptist Church  
1145 Pineville-Matthews Rd.  
Matthews, NC 28105